

韓国ソウルへのアカシユモクザメの航空輸送について

森 徹 , 鈴木 泰也

(海の中道海洋生態科学館)

海の中道海洋生態科学館では 1995 年より、濾過循環および酸素ポンペを装備した FRP 製大型コンテナ(290 × 215 × 106cm)によるアカシユモクザメ *Sphrna lewini* の陸上輸送を断続的に行ってきた。しかし現在までに、旅客機に積載できる小型容器による輸送は、国内では報告がなかった。そこで当館では、2005 年 12 月に韓国ソウル市のコエックス水族館へ航空機輸送を行った。輸送容器は直径 100 cm 高さ 80cm のプラスチック製円筒形密閉容器で、二重構造のフタの中に乾電池プロアを装着し、密閉状態で純酸素を常時水中に通気した。海水は水深 40cm、水量 300L とした。2 回にわたる事前の容器収容試験の結果から、本番では搬入前の DO を 8.94mg/L に調整することに決定し、12 月 6 日に韓国への輸送を実施した。福岡空港までは閉鎖環境による負担を軽減するため、FRP 製大型コンテナで輸送し、輸送容器への収容およびパッキングは通関士立会いの上行った。なお、貨物室内が暗いことから衝突を軽減するために、輸送容器のフタ内に LED ライトを装着した。韓国インチョン空港では通関後、輸送容器の点検窓より生物の遊泳を確認した。コエックス水族館では約 10 分間の換水後、コンクリート製予備水槽(800 × 800 × 40cm 水量 25 m³) に収容した。水槽壁面に衝突を繰り返したため現地職員 8 名によって衝突を防止し、さらに壁の認識を促すため、水面付近にカッティングシートを貼った。当館から現地水槽搬入までの所要時間は約 10 時間だった。